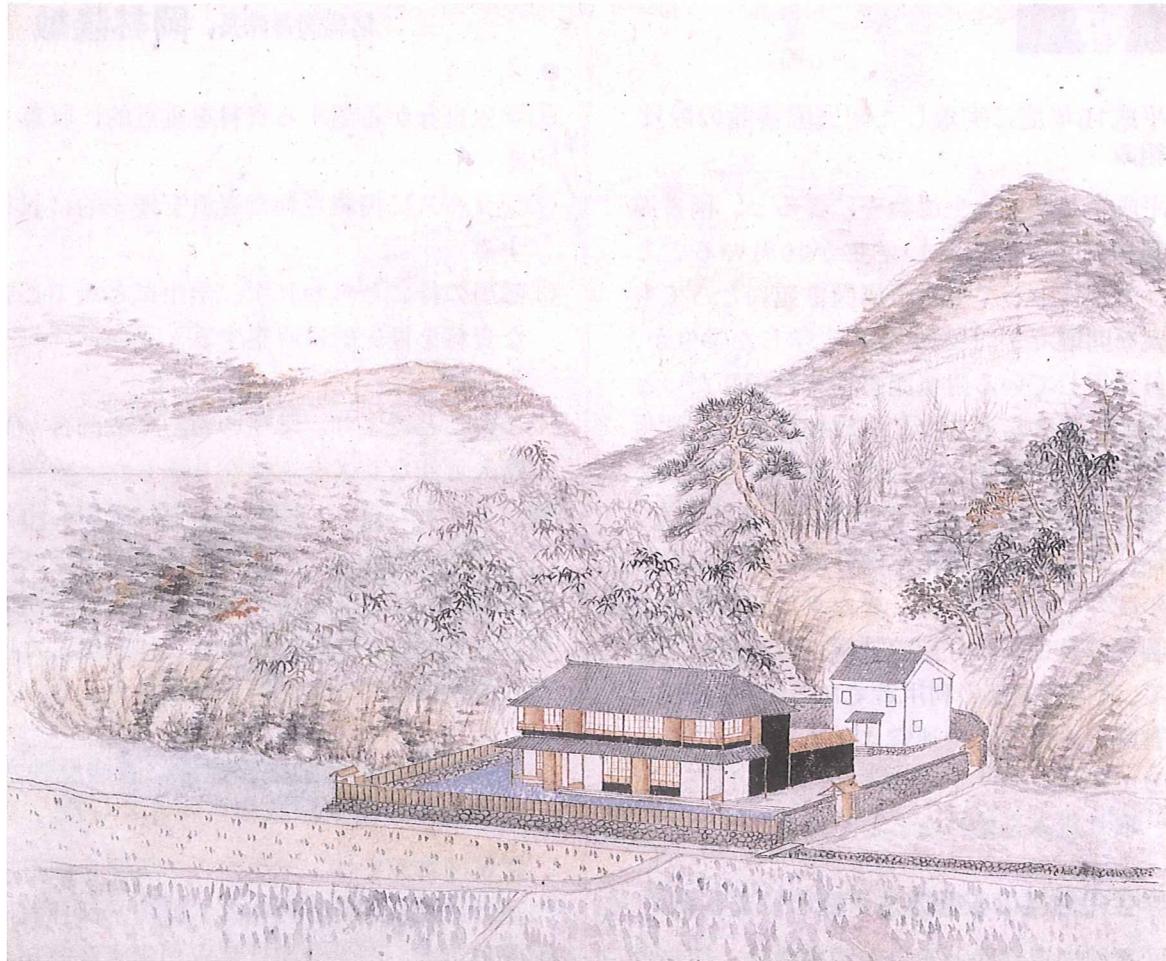




長崎大学附属図書館報  
THE BULLETIN OF THE NAGASAKI UNIVERSITY LIBRARY

和華蘭（わからん）とは、日本（和）・中国（華）・オランダ（蘭）の混合した文化様式をいう長崎の固有の表現です。



「鳴滝塾舎之図」（長崎大学附属図書館経済学部分館所蔵）

—contents—

◆利用者から信頼される新しい時代の大学図書館づくり（附属図書館長 岡林隆敏）	1～3
◆図書館における学生との懇談会報告	4～5
◆学生懇談会の意見・要望に応えて	6
◆放送大学長崎学習センターとの利用協力	7
◆中学生が職場体験学習	7
◆ペリー来航150周年記念「黒船とサムライ」画像展示会開催	8
◆『武藤文庫新発見資料記者発表』開催	9
◆図書館講演会「米国の大学図書館における学習・教育活動支援」	10
◆第18回長崎大学ファカルティ・ディベロップメント（FD）に参加	11
◆平成16年度長崎県大学図書館協議会の活動報告	12
◆本学関係教員著作寄贈図書	13
◆人事異動	13
◆情報スクランブル	14



## 利用者から信頼される 新しい時代の大学図書館づくり

附属図書館長 岡林隆敏

### ・平成16年度に実現した附属図書館の取り組み

平成15年度学生生活調査によると、図書館を利用したことのない学生が40%いることは、大学にとっても、附属図書館にとっても重大な問題です。長崎大学に入学した学生が、全員利用している附属図書館を目指したいと考えています。そこで、平成16年度は、学生の視点から図書館を見直し、実現できるところから改善することを目標にしてきました。特に、医学分館と経済学部分館における平成15年度の「学生懇談会」、また平成16年度の中央図書館及び医学分館の「学生懇談会」を通して、直接図書館の利用者である学生の声を、図書館の設備改善や運営に反映させる試みを行ってきました。平成16年度に実現したことや、取り組みを始めたことを紹介します。

### ・学生用図書の収書方法が変わりました

図書館の運営費と学生用図書費は、従来は各学部に配分された予算から再度図書館に配分されていましたが、平成16年度から、図書館経費の共通経費化が実現しました。これにより、学生用図書費は増額されていませんが、学生用図書の収書の方法を、長崎大学でこれまで続けてきた方法から大きく変えることができました。学生諸君が希望する図書を図書館の窓口に申し出れば、すぐに購入することにしています。また、教員が推薦する学生用図書の購入についても、従来のように学生用図書費を教員それぞれに一律に配分するのではなく、購入希望のある教員から推薦された図書を購入するようにしています。年間を通して、学生と教員から推薦図書を受け付けています。学生用図書の収書の方針として、次の3点が挙げられます。

- ①学生自身が希望する資料を重点的に収集する
- ②シラバスに掲載された資料を優先的に収集する
- ③部局の枠にとらわれず、学生にとって必要な資料を優先的に収集する

このことにより、学生の希望する図書が直接購入可能なシステムになりました。希望図書がありましたら、図書館の窓口に申し出てください。講義に対応した図書が準備されているか、シラバスに掲載されている図書が準備されているかなど、今後さらに充実した収書の方法についていく必要があります。

### ・学生の声を附属図書館運営に直接反映させるために学生懇談会を開きました

附属図書館では、学生からの要望を図書館の運営に反映させるために、経済学部分館は平成15年度、医学分館は平成15年度及び16年度、そして平成16年12月13日には、中央図書館において「学生懇談会」を行いました。文教地区の「学生懇談会」で出された意見を要約すると次のようになります。

①資料面では、「蔵書の充実が最も重要なと思う」という意見が多く、生協にあるような新刊書の不足、参考図書の古さ、一般教養書の必要性などが指摘されました。

②サービス面では、「開館時間を延長してほしい」という意見が多く、平日は「夜9時か、10時まで」、土・日・祝日は「夜8時か、9時まで」。また試験期間中は「朝、8時か8時半から」開館してほしいとの要望がありました。

③施設面では、照明や冷房などの改善要望に加え、「グループ学習室を設けてほしい」、「集中して勉強できる部屋がほしい」、「軽く飲食のできるスペースがあると良い」、など、新しい学習環境の整備が強く望まれています。

④設備面では、「インターネットを使えるパソコンを増やしてほしい」という意見が多く出されました。

早速、これらの意見を図書館の運営に取り入れ、実現したものがあります。

#### ・グループ学習室の設置の試み

施設に関する学生の希望の中に、「グループ学習室」、「サイレントルーム」、「カフェテリア」があります。グループで作業しながらレポートを作成するためには、「グループ学習室」が必要です。逆に、集中して作業をするためには周囲の声の聞こえない、「サイレントルーム」が必要です。図書館の開館時間が、夜の10時頃まで延長されると、お腹が空きますし、またゆったりした環境で本を読むために、「カフェテリア」が併設されている公共図書館が多くあります。時代の変化と学生のライフスタイルに対応した附属図書館の改修が切実な問題だと思われます。

このような学生の希望に対して、附属図書館では、内部で実現可能な努力として、早速、7~8人程度の利用が可能な「グループ学習室」を試行的に改造しています。年度内には1室、このような部屋を準備するようにしています。

#### ・図書館の開館時間を延長しました

附属図書館の開館は、平成15年度から順次延長してきました。現在、経済学部分館は平日は午後9時45分、医学分館は午後9時までとなっています。

中央図書館では、今年の後期の試験期間に対応させて、1月24日から2月18日の間、従来

の午後8時の閉館時間を午後9時45分に試験的に延長しました。学生の利用度も高く、時間延長は学生諸君の切実な希望であったことが改めて実感させられました。現時点で来年度の予算が確定しておりませんが、平成17年度も中央館の閉館時間の夜9時45分を続けたいと考えています。

#### ・⑤パソコンの台数を増やします

学生懇談会では、設備面では、「インターネットを使えるパソコンを増やしてほしい。」という意見が多く出されました。3月中旬に、情報メディア基盤センターの協力により、まず、21台のコンピュータを増設しました。平成17年度の情報メディア基盤センターの機器更新に伴って、現時点での計画としては中央館に100台、医学分館に25台、経済学部分館に10台ぐらいのコンピュータの導入を検討しています。コンピュータの台数はこれでも十分とはいえませんが、開館時間を午後9時45分まで延長することにより、比較的長時間インターネットが利用できる環境が整います。

#### ・新しい時代の図書館を目指して

中央図書館、医学分館及び経済学部分館の改修工事、また、学生用図書の大幅な増加も長年の課題であり、予算の要求を続けています。いずれも高額な予算を必要とするために、すぐに実現するものではありません。しかし、実現可能な点はたくさんあります。図書館の利用者である、教員や学生の意見を直接聞くことにより、日々の改善で利用者にとってより使い易い図書館に進化させることができます。平成15年から平成16年度に実施した、「学生懇談会」により、多くの希望が出され、その一部が実現しています。図書館では、中央図書館と各分館で、1年に1回「学生懇談会」を行うことにしました。学生の皆さん、ご協力をよろしくお願いします。現在の学生の生活に対応した、新しい時代の図書館づくりを目指したいと考えています。

## 図書館における学生との懇談会報告

### 中央図書館での学生との懇談会

平成16年12月13日（月）、中央図書館において、文教キャンパスの「学生懇談会」を開催しました。出席者は 附属図書館委員会委員から推薦された1～4年生に自主参加を加えて計13名（教育学部2名、薬学部2名、工学部3名、環境科学部2名、水産学部4名）でした。岡林附属図書館長の開会挨拶に続き、長澤大学教育機能開発センター助手の司会で懇談を始め、終始和やかな雰囲気のもとに活発な意見が交わされました。

#### 中央図書館がどのようになったら、もっと利用すると思いますか？

##### ○資料面

「蔵書の充実が最も重要だと思う」という意見が多く、生協にあるような新刊書の不足、参考図書の古さ、一般教養書の必要性などが改善すべき点としてあげられました。

##### ○サービス面

「開館時間を延長してほしい」という意見が多く、具体的には平日は夜9時か10時まで、土・日・祝は夜8時か9時まで、また試験期間中は朝8時か8時半から開館してほしいという要望でした。

##### ○施設面

照明や冷暖房などの改善要望に加え、「グループ学習室を設けてほしい」「集中して勉強できる部屋がほしい」「軽く飲食のできるスペースがあると良い」など新しい学習環境の整備を望む声が多く聞かれました。また、試験期間中は閲覧席が不足することから、当面試験期間中に限り、空いている冷暖房入りの講義室を開放してはどうかという提案もありました。

##### ○設備

「インターネット使えるパソコンを増やしてほしい」という意見が多く、混んでいる時は利用をあきらめるか時間をずらすようにしているという事例が紹介されました。

その他、OPACを検索して研究室貸出中の図書だったら？という質問に対して、借りるのをあきらめるという人が多く、学生が使うような図書は全て図書館にあると良い、同じ図書が図書館にもあると良いなどの提案がありました。

研究室に貸出中の図書であっても図書館を介して利用できるサービスがあること、長崎大学にない場合は他大学や公共図書館とのILL（相互貸借）が利用できることなど、広報をもっと学生にわかりやすくしてはどうかという指摘や具体的な提案がありました。

#### OPAC検索などで困ったことは？という質問には、

主題による検索機能の強化を望む声が多く聞かれました。図書館が実施している情報検索指導については、図書館ガイダンスや教養セミナーで指導を受けた人が増えつつあるがまだ全員ではないこと、また編入学生にはオリエンテーションがないため、今後は図書館が配慮する必要があることなどがわかりました。

#### カウンターでのサービスについては、

図書館員がいつも忙しそうに見えて質問しづらいという声が多く、貸出禁止本が多いが一夜貸しはできないのか、書き込みや破れなどのある本は買い換えてほしい、夜間のサービスも向上できないか、一般利用の人が利用しやすい雰囲気を作つてほしい、そして学生自身のモラルの問題でもあるが静かで集中できる環境を作つてほしいなどの要望・意見がありました。



## 今後図書館への要望を伝える方法としては、

リクエスト箱を置いてはどうかという提案がありました。図書館では携帯電話による情報サービスを提供していることもあり、こうしたサービスの一環として考えることも今後の課題のひとつだと思います。

最後に、勝俣附属図書館文教地区委員協議会委員長が参加した学生さんたちに謝意を述べ、閉会としました。

※懇談会での要望に応え、既に改善に取り組んでいることがあります。p.6を参照してください。

## 医学分館での学生図書委員との懇談会

平成17年1月25日（火）に医学分館長室において、「学生図書委員と図書館との懇談会」が開催されました。この懇談会は、昨年度から実施されているもので、各学年から選ばれた学生図書委員5名と相川医学分館長が出席し、医学分館の運営などについて意見交換を行いました。

まずははじめに、医学分館に備え付ける学生用図書について、選書を学生図書委員に依頼しました。関連して、図書館資料全般について次の要望がありました。

(1) USMLE (アメリカの医師資格試験) 関係資料の備付 (2) 個人的に費用負担が大きいシリーズものや洋書の積極的購入 (3) リハビリ関連図書の充実 (4) 電子ジャーナルサイトライセンス版New England Journal of MedicineとLeukemiaの導入 (5) 臨床系データベースUpToDateの導入、など新規資料の要望が強く、また、既所蔵分については、「版が古いものが多く更新をすべき」「最新版の試験問題集は貸出中が多く、複数もしくは禁帶出にしてはどうか」などの意見が出ました。

懇談会後半は図書館運営に関してフリートークイングで話を進め、次の意見がありました。「ビデオなど視聴覚資料利用手引きの広報を効果的に」「図書館からのお知らせにメーリングリストを活用してはどうか」「やっぱり資料の数・質ともに充実している図書館であって欲しい」「グビロが丘文庫は、趣味の読書としてよく活用している」「昨年この懇談会で希望した、貸出冊数・期間変更、日曜開館などが実現してたいへんよくなつた」などの図書館運営に改善を求める意見や評価する意見が様々あり、今

後の図書館運営に非常に参考になる有意義な懇談会となりました。

## 懇談会への対応

昨年度（平成15年11月13日（木））初めて実施した、学生図書委員との懇談会において出された要望事項に対して、対応がとれたものについては、p.6を参照してください。

## 経済学部分館での学生図書委員との懇談会

一昨年の平成15年11月26日（水）に附属図書館経済学部分館において、「学生との懇談会」を開催しました。この懇談会は、日頃図書館を利用している学生の皆さんから生の意見をお聞きして、今後の図書館運営の参考にさせていただこうという趣旨で開いたものです。

当日は、学生を代表して2~4年生各1名、院生2名（内1名は夜間主コース出身）の計5名が参加し、図書館からは柴多分館長、情報サービス課長、経済情報係長の計3名が出席しました。

自己紹介の後、1時間にわたって自由に意見を述べてもらいました。その結果、「経済の図書館には古い本が多い」、「必要とする本が置いていない」という理由で「経済分野に限らずあらゆるものが揃っていて使いやすい」とされる、近隣の長崎県立図書館を利用している学生がいるということや、この年から実施した「夜間の開館時間延長」「日曜開館の実施」「武藤文庫の一般公開」については概ね学生からも評価されている、ということなどが分かりました。

また「古くなっている本は古本市を開いて処分しては」とか、「経済学部の新館に自習室ができたから図書館の閲覧室を削って書架を置いては」といった、予算・規則・組織の枠にとらわれない学生ならではの率直な意見もいただきました。

寄せられた要望のうち、すぐに対応が可能なものについては実行済みですが（p.6参照）、予算やスペースの問題があって直ちにとは行かないものも多くあります。それらのものについても、できるだけすみやかに実現できるよう図書館職員一同努力しているところです。

懇談会によって利用者の側からみた経済学部分館像というものを掴むことができ、改善を行っていくために大変有意義なものであったといえます。

最後になりましたが、お忙しい中ご協力頂いた学生の皆さんへ深く感謝申し上げます。

（情報サービス課）

## 学生懇談会の意見・要望に応えて

学生懇談会の内容に関連したサービス改善や新たな取り組みの一例をご紹介いたします。これからも、できるところから実現していきたいと考えています。図書館がもっと身近で便利になり、学習・研究にもっと役立つよう、そして皆さんのが図書館のサポーターとなって一緒に図書館を支えてくださることを願っています。

### 中央図書館の開館時間延長

平成17年4月から

平日

9:00~21:45

\*休業期を除く

### 中央図書館のパソコン増設

平成17年3月から

インターネットパソコン21台  
を3階情報コンセントルーム  
に設置

### 医学分館で日曜・祝日開館

平成16年4月から

日曜・祝日

10:00~17:00

### グループ学習室の設置

平成17年3月から

中央図書館3階法令資料室  
→第1グループ学習室

### 医学部分館の貸出冊数および 貸出期間の改善

平成16年7月から

3冊以内→5冊以内  
1週間→2週間

### 経済学部分館の貸出冊数の改善

平成16年10月から

3冊以内→5冊以内  
※卒論貸出は変更なし

### 医学分館、経済学部分館の情報検索指導を推進

附属図書館としてのガイダンスのほか、分館  
独自の専門ガイダンスやマニュアルを提供

### 中央図書館医学分館の貴重資料公開

平成15年度の経済学部分館武藤文庫展示室に  
続き平成16年度に医学分館貴重資料展示室及び  
中央図書館古写真展示室を設置

### 学生自身が希望する図書への対応改善

平成16年度の学生用図書収集方法の改善で  
購入・提供がスピードアップ  
\*各館に申込書あり

### シラバスに掲載された資料への対応改善

平成16年度の学生用図書収集方法の改善で  
シラバス掲載図書をもれなく購入・提供  
\*対応する各館に配架

### 経済学部分館の禁帶出本の 一部貸出

平成15年度から

要望があれば書庫内の禁  
帶出本について館外貸出  
などフレキシブルな運用  
で対応

### 医学分館の図書の日焼け対策

ブラインドによる細かな調節で  
日焼け対策

### 医学分館に要望箱を設置

平成15年度から  
入館ゲート付近に要望箱を  
設置

### 経済学部分館の書架の案内を改善

平成15年度から数字（十進分類  
法）だけの表示に主要な主題を  
追加

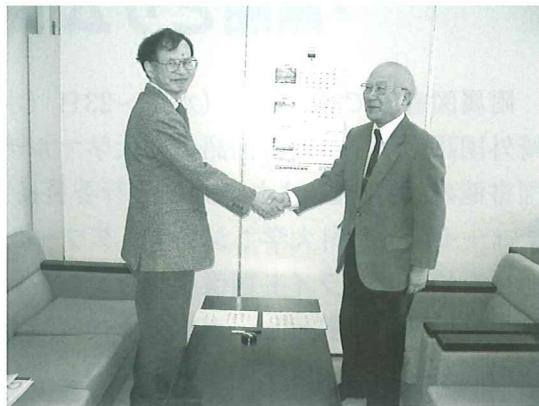
(情報サービス課)

## 放送大学長崎学習センターとの利用協力

平成17年2月10日に「長崎大学附属図書館と放送大学長崎学習センターとの利用協力に関する懇談会」が開催されました。双方の学生の学習意欲の向上と新たな交流の広がりを図るため、懇談会では岡林長崎大学附属図書館長と浦放送大学長崎学習センター所長とが「申し合わせ」を取り交わし、今後もこうした懇談を継続していくことで一層の連携・協力を目指すことになりました。

この「申し合わせ」に基づいて、附属図書館では、平成17年3月から放送大学長崎学習センターの学生のために、本学学生と同じ条件で図書を貸し出すサービスを始めました。また、平成17年4月には放送大学の入学式に合わせて本学の附属図書館ガイダンスを予定しています。放送大学の学生を対象とした図書館ガイダンスの実施は全国的にも珍しく、新しい利用協力のあり方として注目されています。

※平成14年3月には「長崎大学と放送大学との単位互換に関する協定」が結ばれ、平成16年4月には放送大学長崎学習センターが本学の文教キャンパスの総合教育研究棟の3階に移転しています。今度の「申し合わせ」によって、さらに双方の学生の連携・交流が深まることを願っています。



申し合わせを取り交わす握手をする岡林図書館長（左）と浦放送大学長崎学習センター所長

## 中学生が職場体験学習



附属図書館では、平成17年1月24日（月）～26日（水）の3日間、中学校からの職場体験学習生を初めて受入ました。

受入したのは、長崎市立桜馬場中学校2年生3名（男子1、女子2）の生徒で、資料の整理、図書、雑誌の発注・受入、文献複写、貸出・返却業務のカウンター実習等全般的な業務の体験と、分館（医学分館、経済学部分館）の見学をしてもらいました。

3名とも本が大好きで図書館の仕事をしたいということで、今回の体験学習を楽しみにしていたようです。初日は硬さが見られ、話しかけに対して反応がありませんでしたが、慣れてくると徐々に良くなりました。説明等を聞く態度も終始目を輝かせ、作業にも真剣に取り組んでいました。

日誌・感想文から、「大変だったが楽しく仕事をすることができた」「とても貴重な体験ができ、思い出に残る」「3日間が終わって残念です」「仕事をやり遂げるのはすごく大変なのだとわかった」「今度来るときは大学生として図書館を利用したい」等が記せられていました。

今回の体験学習は、生徒にとっても有意義なことだったと思いますし、学校を離れて社会の規律や現実の厳しさ等も少しほんの少しあつたと思います。良き思い出として、また、今後の進路の参考になれば幸いです。

## ペリー来航150周年記念 「黒船とサムライ」画像展示会開催

附属図書館では2月9日（水）～23日（水）の15日間、長崎市出島史跡ヘトル部屋において長崎外国語大学・長崎外国語短期大学マルチメディアライブラリー、長崎ウエスレヤン大学附属図書館の3館共催により、姫野実行委員長（長崎大学環境科学部教授）の下にMIT（米国マサチューセッツ工科大学：ジョン・ダワー教授及び宮川教授）と協力して、ペリー来航150周年記念「黒船とサムライ」画像展示会を開催いたしました。長崎大学附属図書館からは「ペリー関係史料」を独自展示し、東京大学アメリカ・太平洋研究センターからは東京大学史料編纂所所蔵の「ペリー渡来絵図貼交屏風」のレプリカを提供していただきました。昨年のギメ展と同じく多くの市民の皆さまに見ていただけるように、開催時期は長崎の冬の一大イベント「2005長崎ランタンフェスティバル」に合わせたものでした。

この企画は1854年に日米和親条約が締結され日本が開国してから150周年を記念するものであり、すでに全米各地で巡回展示され、日本では東京大学を皮切りに下田に次いで3番目の開催となりました。これから函館や横須賀で展示が予定されています。

会場には、日米双方から描かれた「ペリーの肖像画」をはじめ、幕府に献上された蒸気機関車の模型が描かれた「屏風絵」、「ペリーの日本遠征記」などが展示され、日米の画家たちがそれぞれの視点から描きだした水彩画、木版画等約60点が対照的に展示されました。日本人が描いた黒船の船首の「怪物」の顔や、ペリーを描いた小鬼や天狗のような画像には、当時日本人が抱いた恐怖の心象風景を見とれます。またダワー教授のDVDによる解説は大変好評でした。

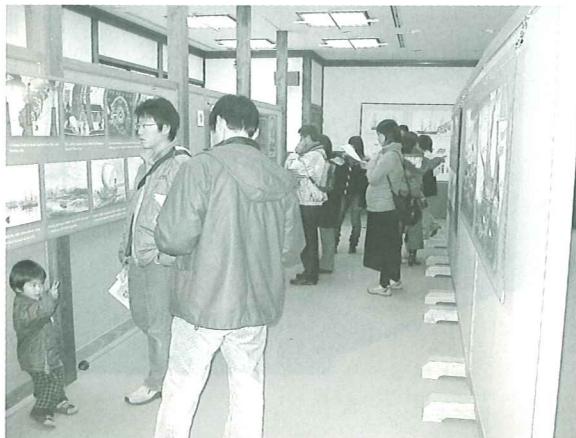
「異文化理解における新たな発見を期待しています」という姫野実行委員長の挨拶には、イラク戦争で緊張する異文化対立の克服への思いが込められているようです。展示物の解説位置など反省すべき点はありましたが、いただいた感想は「当時の様子が絵となってダイレクトに見えたことに感動しました」「大変勉強になり、米国との関係がより深くなった」と概ね好評でした。ある80代の男性の方からは「日本の夜明けが興味深くてとてもよかったです。懐かしい思い出で胸が一杯になった。日本の開港の歴史を生の姿で見た思いがする、長崎こそその開国の係った歴史が伝わってくるすばらしい展示でした」という熱い感想が寄せられています。

3大学および長崎市との連携により、そしてマスコミからも応援をいただき、会期中5,223人の多くの来場者に見ていただき、大盛況のうちに展示会を終了し、地域連携と国際親善に貢献することができました。

（情報管理班長）



【展示会場】



## 『武藤文庫新発見資料記者発表』開催

附属図書館では、経済学部分館で新たに発見された「武藤文庫」の新資料について、2月10日(木)に記者発表を行いました。

武藤文庫は、長崎大学経済学部の前身長崎高等商業学校の教授を長年勤められた、故武藤長蔵博士が収集された蔵書・資料です。和洋図書ならびに雑誌・小冊子類約1万冊および地図・書画・陶器等の各種資料約200点からなり、経済学関係の古典や対外交渉史関係の資料、さらには地元長崎関係の資料など、広範囲な学問分野にわたり多くの稀覯書が含まれています。

昨年9月、この武藤文庫をデータベース化するための基礎調査を行っている過程で、ダンボール詰のまま埋もれていた資料が展示室横の倉庫の中で発見されました。

今回新たに見つかった約1,000点余りの資料は、江戸時代の長崎や対外貿易に関する古文書を中心に、明治期の古写真や地図、幕末期の蘭書、外国駅舎と思われる図面など、すでに整理済みのものと同様に様々な分野のものが含くまれています。

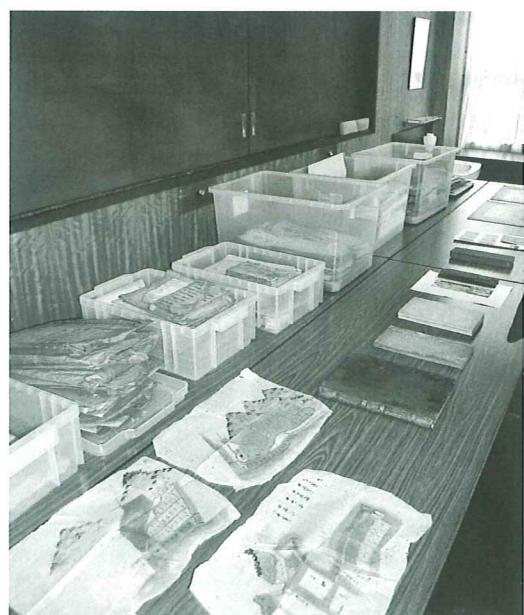
記者発表当日は挨拶の後、斎藤学長から「これらの資料によって新しい角度から"長崎学"を探求できるようになる」と、今回の発見の意義について説明が行われました。引き続き、柴多経済学部分館長から「これだけまとまって近世の古文書が見つかることは長崎では珍しく、今回発見された資料は、質・量ともに重要なものである」との資料全体の位置付けが行われ、その後代表的な資料について個々に説明が行われました。

会場には新聞やテレビのマスコミ各社が取材に訪れ、質疑応答では記者からの熱心な質問も見受けられるなど、その関心の高さが伺えました。

附属図書館では、平成17年度中に今回の資料を整理するためのプロジェクトチームを立ち上げ作業を開始し、将来的には目録を作成しインターネット等を通じて情報公開を行っていく予定です。  
 (経済情報担当)



▲【記者発表を行う、斎藤学長（左）と柴多経済学部分館長（右）】



▲【今回新たに発見された資料の一部】

図書館  
講演会

## 「米国の大学図書館における学習・教育活動支援」

(大学教育機能開発センター・長澤多代助手)

2004年12月7日（火）に大学教育機能開発センターの長澤多代助手を講師として、「米国の大学図書館における学習・教育活動支援」をテーマとする講演会が開催されました。学習活動支援は学生が情報や図書館を効果的に利用して学習活動ができるように支援する図書館活動を意味します。教育活動支援は教員の教育活動を対象にした同様の活動です。講師による自己紹介の後、主として、次の4つの話題が提供されました。

- ①大学図書館における学習活動支援の枠組み
- ②ファカルティ・ディベロップメント
- ③米国の高等教育と図書館
- ④アーラム・カレッジ図書館が実施する学習・教育活動支援

①は、「大学図書館における学習活動支援の枠組み」です。ここでは、日本図書館協会の図書館利用教育委員会が作成した『図書館利用教育ガイドライン』(1998年)をもとに、印象づけ、サービス案内、情報探索法指導、情報整理法指導、情報表現法指導の点から、図書館が実施する学習活動支援の枠組みが説明されました。

②は、「ファカルティ・ディベロップメント(FD)」です。ここでは、FDが日本では「教育内容や方法を改善し、向上させるための組織的な取組み」と理解されていること、FDには教員開発(FD)、教育開発(ID)、組織開発(OD)があることなどFDの概要が説明されました。

③は、「米国の高等教育と図書館」です。ここでは、ハーバード大学創立(1636年)に始まる米国の高等教育の歴史と図書館の関係が、大学の理念、カリキュラム、教授法、教員の役割とともに紹介されました。

④は、「アーラム・カレッジ図書館が実施している学習・教育活動支援」です。ここでは、インディアナ州にあるアーラム・カレッジ(Earlham College)の事例調査をもとに、学習活動支援と教育活動支援の取組みが紹介されました。アーラム・カレッジは、フレンズ会を母体とする学生数1,150名、教員数85名の小規

模な教養カレッジです。教員と図書館員が協力して学生の学習活動を支援する大学として定評があります。

アーラム・カレッジの図書館が実施している主な学習活動支援には、図書館ツアー、図書館利用クイズ、図書館利用の講義、新入生のための情報利用ガイダンス、学科関連型指導、新教養教育カリキュラムにおける利用教育があります。ここでは、各支援の対象者、目的、内容、担当者について説明がありました。特に印象に残ったのは、歴史学や地理学など自らの専門分野をもつ図書館員が専門分野を同じくする教員と協力して学生の学習活動を支援していること、図書館長自らが学習活動支援を企画し、実施していることでした。

アーラム・カレッジの図書館が実施している主な教育活動支援には、教員採用候補者との面談、新任教員への手紙、新任教員のオリエンテーション、データベース利用支援ワークショップ、新教養教育カリキュラムの支援ワークショップがあります。ここでも、各支援の対象者、目的、内容、担当者について説明がありました。特に印象に残ったのは、着任前も含めて教員に繰り返し図書館のサービスを紹介していること、夏期休暇中に実施するワークショップの参加者に前任の図書館長が設立した基金から研修費用が提供されていることでした。

最後に、アーラム・カレッジ図書館が実施している学習・教育活動支援の特徴が次のようにまとめられました。

- レファレンス質問をもとに、学生や教員のニーズを把握して支援プログラムを開発している。
- ニーズが最も高まるときに支援を実施している。
- 教員への印象づけを繰り返し行なっている。
- 学生、教員、図書館員のコミュニケーションの機会と場を設けている。

参加者一同、今後の図書館サービスの方法やその環境整備について参考になる情報を得ることができました。講演後の質疑応答だけでなく、懇親会でも、多くの意見交換が和やかに進められました。

(参考調査担当)



## 第18回長崎大学ファカルティ・ディベロップメント(FD)に参加

附属図書館では、平成14年度開催第8回FDに引き続き（前回のFDの報告は「大学図書館研究」第69号に掲載）、大学教育機能開発センター主催「第18回長崎大学ファカルティ・ディベロップメント：課題探求・解決型授業の支援」において、「情報資源の探索法」を実施いたしました。

開催日時は、平成17年3月8日（火）と9日（水）の10：00～12：00、開催場所は、総合教育研究棟2階多目的ホールにおいて、参加教員数は8日6名、9日8名、計14名で実施しました。

今回の内容は、教員の授業準備の際の文献調査で必要となる主題に関する情報の検索から資料の収集までのプロセスを、

1) 図書館の資料について、2) データベースでの検索、3) 長崎大学附属図書館のサービスのページへのアクセス、4) 長崎大学から利用できる学術情報データベース、5) 引用・参考文献の見方、6) 長崎大学から利用できる電子ジャーナル、7) 検索エンジンを使った文献情報・引用情報検索、8) ILL（文献複写・現物借用）申込、9) 雑誌や論文ごとの引用関係数値、10) 著作権の基本的な知識、に沿って説明し、参加教員には適宜演習をおこなっていただきました。

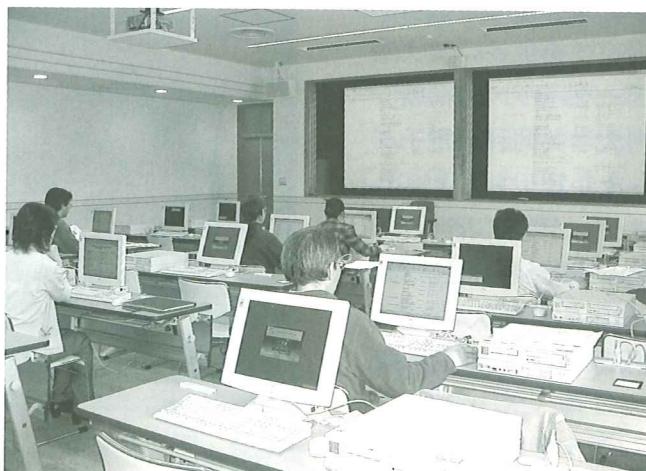
演習の際には、参加教員にそれぞれの専攻分野について、紹介したデータベース・電子ジャーナル・OPAC等での検索を通して、各ツールに対する具体的な理解と評価をしていただきました。

また、附属図書館参考調査担当で実施している図書館利用ガイドにおいて、学生・院生へ指導の際に留意している点もあわせて説明をおこないました。

あわせて、FDの際のオプション開催として、EBSCO Publishing Japanの担当者よりデータベース「EBSCOhost」を、エルゼビア・ジャパン株式会社の担当者より「Science Direct」「Scopus」を、(財) 化学情報協会の担当者より、本年4月からオープン利用化される化学系データベース「SciFinder Scholar」について説明がありました。参加者は、各社説明者から丁寧な検索説明を受け、日頃の利用の際の疑問点を個別に質疑し有効な説明会となりました。

今後とも、図書館といたしましては、教員・院生の利用者の方へのガイドを随時、積極的に実施していきますので、お申し込みください。

(参考調査担当)



## 平成16年度 長崎県大学図書館協議会の活動報告

長崎県大学図書館協議会は、平成7年6月に発足し、県内全ての大学と短期大学図書館及び高等専門学校図書館が加盟し、平成17年3月現在13館により組織され、相互に連携と協力を図り、図書館の充実と発展に寄与することを目的として、活動を行っています。

また、長崎県公共図書館等協議会とも館種を超えた幅広い協力体制により、連携を図っています。以下に平成16年度の主な活動を紹介します。

### ■研修会

#### (1) 大学・公共図書館職員の合同研修会

- 日 時：平成16年9月13日（月）  
13:00～16:00  
場 所：活水女子大学第一情報処理室  
テーマ：「インターネットを利用した学術情報データベースの使い方」  
講師及び演題  
・金丸明彦氏（長崎大学附属図書館主査）  
「主な学術情報データベースの紹介と情報検索実習」  
・橋本要氏（長崎県立長崎図書館主事）  
「県立長崎図書館ホームページの紹介と蔵書検索」  
参加者：70名

#### (2) 日 時：平成16年10月22日（金）

- 14:00～17:00  
場 所：長崎大学附属図書館会議室  
テーマ：①「県内紀要掲載長崎関係論文データベースの構築」  
②「県内大学共同利用電子ジャーナル利用拡大」  
講 師：飯島芳典氏（長崎国際大学）  
岩崎由希子氏（長崎純心大学）  
下田研一氏（長崎大学）  
森 茂樹氏（活水女子大学）  
参加者：20名

### ■講演会

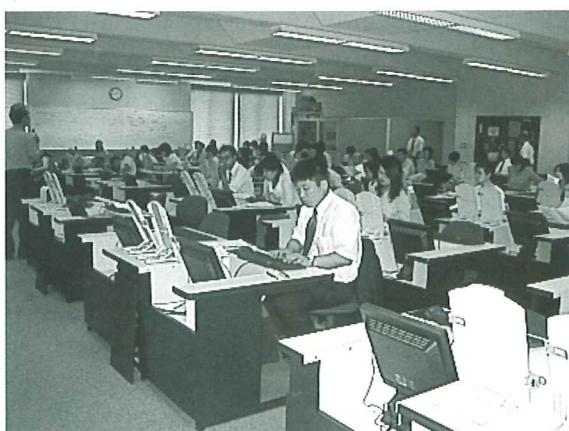
- (1) 日 時：平成16年12月7日（火）  
場 所：長崎大学附属図書館会議室  
演 題：「米国の大学図書館における学習教育支援活動」  
講 師：長澤多代氏（長崎大学教育開発機能センター）  
参加者：20名  
※長崎大学附属図書館と共催

(2) 日 時：平成17年1月21日（金）

- 14:00～17:30  
場 所：長崎大学附属図書館会議室  
演 題：「地方の大学とNIIとの連携—上手に付き合うために」  
講 師：大場高志氏（国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課長）  
参加者：28名

(3) 日 時：平成17年2月14日（月）

- 15:30～17:00  
場 所：長崎大学附属図書館会議室  
演 題：「大学図書館の建築と設備」  
講 師：植松貞夫氏（筑波大学附属図書館長）  
参加者：32名  
※長崎大学附属図書館と共催



【大学・公共図書館職員の合同研修会場】

（情報管理班長）

## 本学関係教員著作寄贈図書 (平成16年12月～平成17年3月10日分)

有田 嘉伸 教育学部教授

- 社会科教育の研究と実践／有田嘉伸著—西日本法規出版, 2005.1

[中央図書館 375.3 || 2005 1506599,1506600]

堀井 健一 教育学部助教授

- 危機をめぐる歴史学:西洋史の事例研究／山代宏道編；堀井健一 [ほか] 執筆一刀水書房, 2002.8

[中央図書館 230 || 2002 1507380]

戸田 清 環境科学部助教授

- 農業と環境／中島紀一,古沢広祐,横川洋編集；戸田清 [ほか] 執筆-農林統計協会, 2005.1-

(戦後日本の食料・農業・農村:第9巻) [中央図書館 612.1 || 2005 1506962]

- 帝国への挑戦：世界社会フォーラム／ジャイ・セン [ほか] 編；武藤一羊, 戸田清 [ほか] 監訳—作品社, 2005.2

[中央図書館 309.04 || 2005 1507097]

金田 英子 热帶医学研究所助手

- スポーツ人類学／宇佐美隆憲編著；金田英子 [ほか] 執筆—明和出版, 2004.9

[中央図書館 780.13 || 2004 1506597]

- 教養としてのスポーツ人類学／寒川恒夫編；金田英子 [ほか] 執筆—大修館書店, 2004.7

[中央図書館 780.13 || 2004 1506598]

長崎遺伝倫理研究会

赤星 衣美 附属病院産婦人科病棟副師長, 飯塚 知敬 教育学部教授, 近藤 達郎 附属病院小児科助教授

篠原 俊一郎 教育学部教授, 堀井 健一 教育学部助教授, 増崎 英明 附属病院産婦人科助教授

松本 正 医学部保健学科教授, 三浦 清徳 附属病院産婦人科助手,

宮原 春美 医学部保健学科助教授

- 遺伝カウンセリングを倫理するケーススタディー／長崎遺伝倫理研究会編—診断と治療社, 2005.2

[中央図書館 491.69 || 2005 1506932]

[医学分館 491.69 || 2005 2131832]

(図書情報担当)

### 人事異動

(平成16年12月31日付)

(職名)

辞 職 図書館部長

安永 勉

(平成17年1月1日付)

(職名)

採 用 長崎大学図書館部長

(前職)

名古屋大学附属図書館情報管理課長

北村 明久



北村新部長

#### 【新図書館部長ご挨拶】

学生・教職員のみなさんの声をおききするとともに、図書館をより理解していただけるような活動に努め、使いやすい図書館、使っていただける図書館にしていきたいと思います。

## 情報スクランブル

中央図書館からのお知らせ

### 中央図書館の開館時間の延長

春・夏・冬季休業期間を除き、平日の夜間開館時間をこれまでの20時から21時45分まで延長いたします。ご利用ください。

### グループ学習室を新設

中央図書館3階にグループ学習室を新設しました。

ゼミ・グループでのレポート作成など図書館の利用がますます便利になります。

どうぞご利用ください。

(予約制ですので申込みはカウンターでお願いします)

医学分館からのお知らせ

CD-R/RW、MOの館内貸出をしています

医学分館では、フロッピーディスクでは容量が足りないファイルの保存等のため、CD-R/RW、MOドライブをカウンターに用意しています。どうぞご活用ください。

※記録メディアはご持参ください。また、著作権を守ってご利用ください。



経済学部分館からのお知らせ

学生用図書を充実させました

平成16年度中に購入した学生用図書【学生希望図書（リクエスト制度）、教員推薦図書、シラバス掲載図書】は経済学部分館ホームページに掲載しています。

(URL) <http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/el/index-j.html>

皆さまのご利用をお待ちしています。

引き続き平成17年度学生用図書の申込みを受け付けています。

長崎大学附属図書館報 No.94 2005年（平成17年）3月31日発行

編集委員会 委員長 森高 桂子

委 員 金丸 明彦・濱口千賀子・辻村 恵二・志波原智美・森石みどり・山本知美

発 行 長崎大学附属図書館 〒852-8521 長崎市文教町1-14

電 話 (095)819-2193 (総務係) 附属図書館ホームページアドレス <http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/>  
図書館報アドレス <http://www.lb.nagasaki-u.ac.jp/kanpo/>